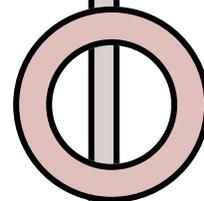


社会的処方実装に向けて
～医師・リンクワーカーへの
インタビュー調査～

医学部4年 太田奈歩

目次

- 01** 研究室に入った経緯と頻度
- 02** 研究過程のタイムライン
- 03** 研究概要と掲載雑誌
- 04** 研究をやってよかったこと
- 05** 今後の展望



研究室に入った経緯と頻度

【経緯】

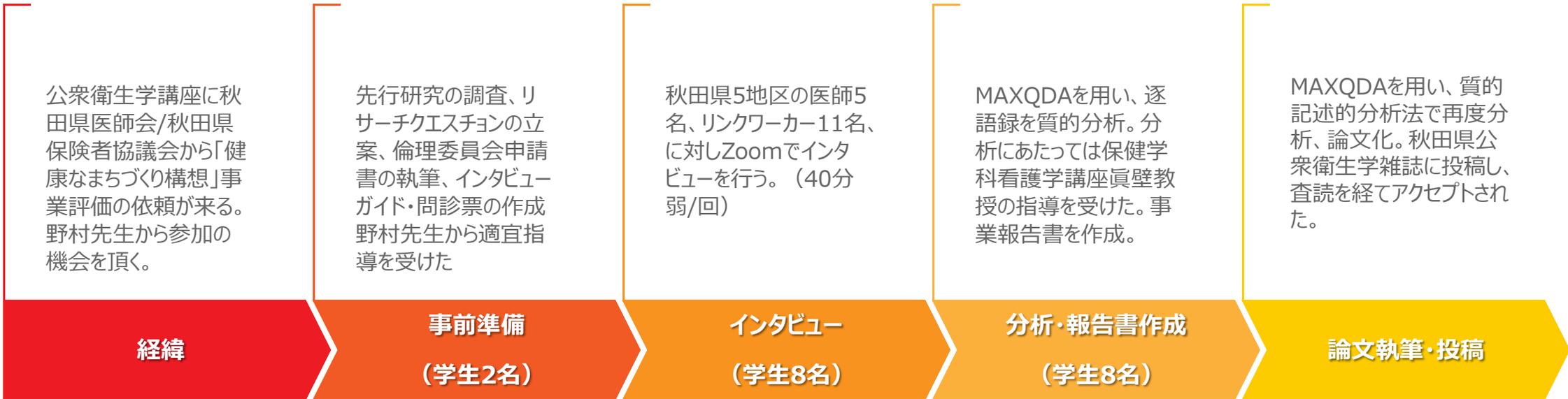
- 医療政策や医系技官の職に興味があった。
- 公衆衛生学教室に連絡先を知っている先輩がいた。
→1年生12月頃から研究室に通い始める

【頻度】

- 週に2回程度講座に通い野村先生から直接ご指導いただく
- 放課後や週末に作業し、適宜野村先生にメールで指導を仰ぐ

研究過程 タイムライン

統一試験の期間と被っていましたが、複数の学年の学生がいるチームだったため助けられました....



← **2年弱** →

研究概要・掲載雑誌

「医師視点から見られた高齢者への社会的処方の実装における障壁と促進要因～秋田県5地区でのインタビュー調査～」

掲載雑誌： 秋田県公衆衛生学雑誌

研究背景・目的： 高齢者への社会的処方の実装を行う上での障壁や、それを可能にする要因について、秋田県のかかりつけ医の視点を明らかにすることを目的とした。

研究方法： 令和3年度「かかりつけ医と医療保険者との協働による健康なまちづくり構想事業」に参加した秋田県5地区の医師5名を研究対象とした。半構造化面接を用いた質的記述的研究法を用いた。MAXQDAを使用し、逐語録データから社会的処方を実装するための障壁や促進要因について語られた記述をコードとして抽出し、その後、サブカテゴリー・カテゴリー化を行い、質的記述的研究法にて分析した。

結果・考察： 「健康なまちづくり構想」に参加した医師5名のインタビュー調査から、阻害要因として「時間的制約」、「資源の不足」、「患者の状況による影響」、促進要因として「患者に寄り添うリンクワーカーの存在」、「医師の社会的処方への期待」、「関連機関での情報共有」、「患者に適した社会資源の紹介」、「社会資源参加に適した患者の特性」が抽出され、これらを考慮したうえで社会的処方を行う必要性が示唆された。

表1 医師視点から見る社会的処方阻害要因・促進要因

大カテゴリー	カテゴリー	サブカテゴリー
社会的処方実装への阻害要因	時間的制約	医師の診察の中で行う社会的処方に関する負担
		リンクワーカーと患者の関係構築までにかかる膨大な時間
	資源の不足	患者の移手段の不足
		社会資源の数と種類の不足
患者の状態による影響	社会資源開催費の金銭的懸念	
	社会資源参加は患者の体調や精神的健康問題に依存	
	社会資源参加の心理的ハードルの高さ	
社会的処方実装への促進要因	患者に寄り添うリンクワーカーの存在	患者宅へ訪問する存在
		患者の良き相談相手としての役割
		豊富な社会資源の知識
		守秘義務の必要性
	医師の社会的処方への期待	全人的医療実践への期待
		リンクワーカーの役割による診察時間短縮の期待
		金銭的インセンティブ
	関連機関での情報共有	多職種間でのシームレスな連携
		リンクワーカー間の横のつながり
	患者に適した社会資源の紹介	趣味や健康課題に関連した社会資源
傾聴社会資源の必要性		
社会資源参加に適した患者の特性	主治医への信頼	
	社交的な性格	

研究をやってよかったこと

- 公衆衛生について深く学ぶことができ、知識が増えた。
公衆衛生学講座で行われる研究
「社会的処方」とは何か
質的研究の手法、量的解析方法
学会発表や論文の書き方
- 研究をする面白さを知った
未知のことを知ることができる楽しさ！！

今後の展望

- R4年度のインタビュー調査を論文化
- 今年度事業調査では、英文論文を目指す

ご清聴ありがとうございました！